

FireSIGHT システムでの LDAP 認証オブジェクトの設定

内容

[概要](#)

[LDAP認証オブジェクトの設定](#)

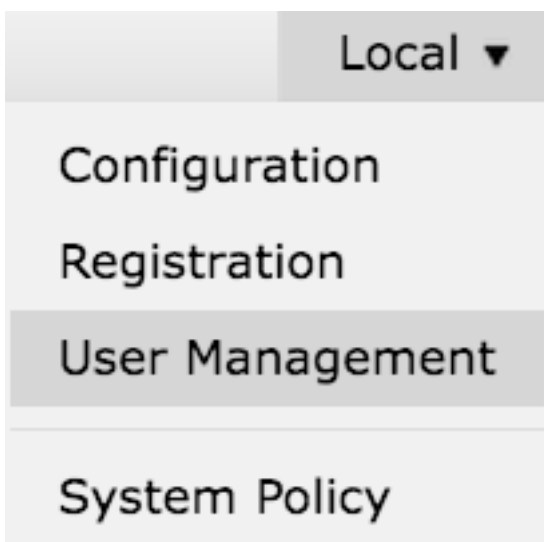
[関連資料](#)

概要

認証オブジェクトとは、外部認証サーバのサーバプロファイルであり、これらのサーバの接続設定と認証フィルタ設定が含まれています。認証オブジェクトは FireSight Management Center で作成、管理および削除できます。このドキュメントでは、FireSIGHT システムで LDAP 認証オブジェクトを設定する方法について説明します。

LDAP認証オブジェクトの設定

1. FireSIGHT Management CenterのWebユーザインターフェイスにログインします。
2. [System] > [Local] > [User Management]に移動します。



[Login Authentication]タブを選択します。



[Create Authentication Object] をクリックします。

Create Authentication Object

3. [Authentication Method] と [Server Type] を選択します。

- Authentication Method : [LDAP]
- [Name] : <認証オブジェクト名>
- Server Type : MS Active Directory

注：アスタリスク(*)の付いたフィールドは必須です。

Authentication Object

Authentication Method

Name *

Description

Server Type

4. プライマリおよびバックアップサーバのホスト名またはIPアドレスを指定します。バックアップサーバはオプションです。ただし、同じドメイン内の任意のドメインコントローラをバックアップサーバとして使用できます。

注：LDAPポートのデフォルトはポート389ですが、LDAPサーバがリッスンしている非標準のポート番号を使用できます。

5. LDAP固有のパラメータを次のように指定します。

ヒント：LDAP固有のパラメータを設定する前に、ユーザ、グループ、およびOU属性を特定する必要があります。認証オブジェクト設定のActive Directory LDAPオブジェクト属性を特定するには、[このドキュメント](#)を参照してください。

- ベースDN：ドメインまたは特定のOU DN
- [Base Filter]：ユーザがメンバーになっているグループDN。
- [User Name]:DCの偽装アカウント
- パスワード：<password>
- Confirm Password：<password>

詳細オプション：

- 暗号化：SSL、TLS、またはNone
- SSL証明書アップロードパス：CA認定のアップロード（オプション）
- ユーザー名テンプレート：%s
- タイムアウト（秒）:30

LDAP-Specific Parameters

Base DN * ex. dc=sourcefire,dc=com

Base Filter ex. (cn=jsmith), (|cn=jsmith), (&(cn=jsmith)(|(cn=bsmith)(cn=csmith*)))

User Name * ex. cn=jsmith,dc=sourcefire,dc=com

Password *

Confirm Password *

Show Advanced Options ▼

Encryption SSL TLS None

SSL Certificate Upload Path ex. PEM Format (base64 encoded version of DER)

User Name Template ex. cn=%s,dc=sourcefire,dc=com

Timeout (Seconds)

ADの[Domain Security Policy Setting]で、[LDAP server Signing requirement] が[Require Signing]に設定されている場合は、SSLまたはTLSを使用する必要があります。

LDAPサーバ署名要件

- **[なし (None)]** : サーバとバインドするためにデータ署名は必要ありません。クライアントがデータ署名を要求する場合、サーバはそれをサポートします。
- **署名の要求** : TLS/SSLが使用されていない限り、LDAPデータ署名オプションをネゴシエートする必要があります。

注 : LDAPSでは、クライアント側またはCA証明書 (CA証明書) は必要ありません。ただし、CA証明書の追加レベルのセキュリティが認証オブジェクトにアップロードされます。

6.属性マッピングの指定

- **UIアクセス属性**:sAMAccountName
- **シェルアクセス属性**:sAMAccountName

Attribute Mapping

UI Access Attribute *

Shell Access Attribute *

ヒント : テスト出力で「Unsupported Users」というメッセージが表示された場合は、[UI Access Attribute] を[userPrincipalName] に変更し、[User Name template] が%sに設定されていることを確認します。

Unsupported Admin Users

The following administrator shell access users (3) were found with this filter but are invalid because their format is not supported for this appliance:

secadmin1, secadmin2, secadmin3

Unsupported Users

The following users (3) were found with this filter but are invalid because their format is not supported for this appliance:

secadmin1, secadmin2, secadmin3

*Required Field

7.グループ制御アクセスロールの設定

ldp.exeで、各グループを参照し、対応するグループDNを次のようにAuthentication Objectにコピーします。

- <Group Name>グループDN:<グループDN>
- グループメンバー属性：常にメンバーである必要がある

例：

- 管理者グループDN:CN=DC admins,CN=Security Groups,DC=VirtualLab,DC=local
- グループメンバー属性：member

ADセキュリティグループには、属性memberの後にメンバーユーザのDNが続きます。member属性の前にある数値は、メンバーユーザの数を示します。

```
3> member: CN=secadmin3,CN=Users,DC=VirtualLab,DC=local; CN=secadmin2,CN=Users,DC=VirtualLab,DC=local; CN=secadmin1,CN=Users,DC=VirtualLab,DC=local;
```

8. 「シェル・アクセス・フィルタ」で「ベース・フィルタと同じ」を選択するか、手順5に示すようにmemberOf属性を指定します。

シェルアクセスフィルタ:(memberOf=<group DN>)

例として、

シェルアクセスフィルタ:(memberOf=CN=Shell users,CN=Security Groups,DC=VirtualLab,DC=local)

9.認証オブジェクトを保存し、テストを実行します。正常なテスト結果は次のようになります。



Info



Administrator Shell Test:

3 administrator shell access users were found with this filter.

See Test Output for details.



Info



User Test:

3 users were found with this filter.

See Test Output for details.



Success



Test Complete: You may enter a test user name to further verify your Base Filter parameter.

Admin Users

The following administrator shell access users (3) were found with this filter:

secadmin1, secadmin2, secadmin3

Users

The following users (3) were found with this filter:

secadmin1, secadmin2, secadmin3

*Required Field

Save

Test

Cancel

10. 認証オブジェクトがテストに合格したら、システムポリシーでオブジェクトを有効にし、アプライアンスにポリシーを再適用します。

関連資料

- [認証オブジェクトに関する Active Directory LDAP オブジェクト属性の識別の設定](#)